

## 令和6年能登半島地震-地盤災害(速報版2)-

金沢工業大学 工学部環境土木工学科  
(公益社団法人 地盤工学会 令和6年能登半島地震調査団)

高原利幸 2024.1.5

地震での犠牲者の方々に哀悼の意を表すとともに、被災されている方々へ救助・支援の手が行き届くよう祈念いたします。地盤工学会令和6年能登半島地震の調査団のメンバーとして、地盤災害発生箇所の調査を行っています。

利用したサイトは下記の通り。

(1)国土地理院・空中写真閲覧サービス:<https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do#1>

(2)国土数値情報ダウンロードサイト:<https://nlftp.mlit.go.jp/>

### 1. (調査日1月2日)金沢市田上新町



宅地造成地の盛土部分の崩壊。(写真赤囲み)

周辺は金沢大学敷地内も含め多数の盛土があるが、崩壊したものはここだけ。道路を挟んで下側で他の家屋よりも瓦被害が多い家屋があり、地形的な問題と思われる。

その他盛土部分はき裂などの返上も見当たらない。崩壊土砂は道路まで到達。



宅地内道路端の4棟が被害(撮影:高原)



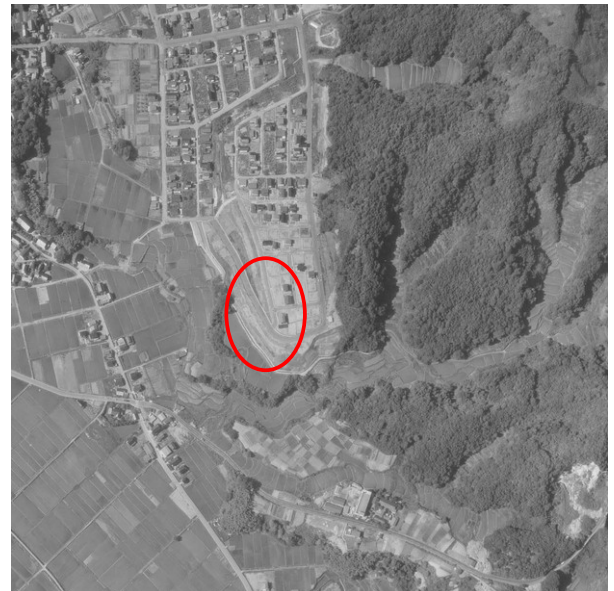
主要道路を挟んで下流側の屋根瓦の被害が他の場所に比べて多い。(撮影:高原)



土砂の流出(撮影:高原)



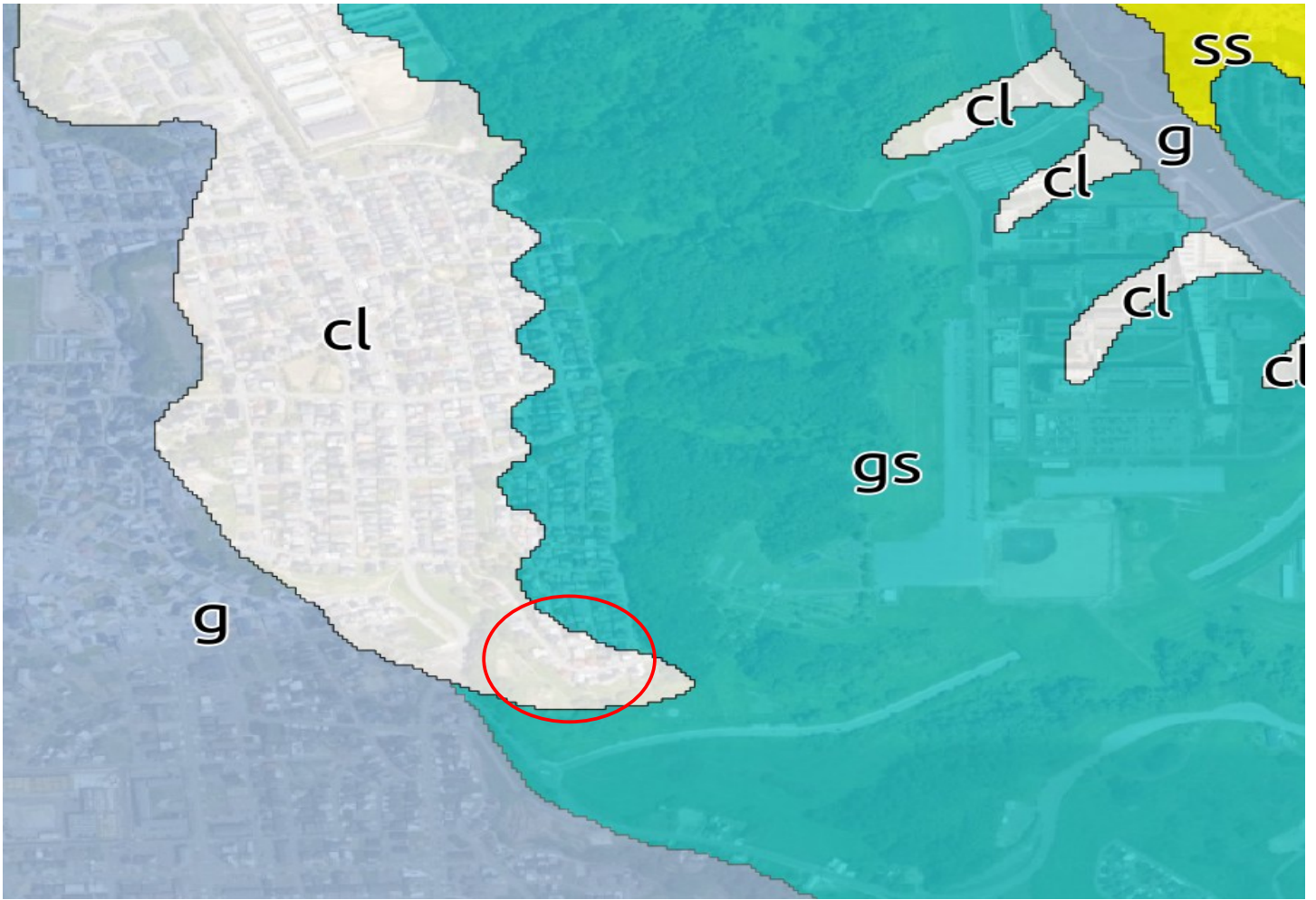
1962年の造成前の様子



1973年の造成後の様子

(空中写真閲覧サービスより<sup>1)</sup>)

過去の空中写真から宅地造成は1970年前後には完了していたと思われる。丘陵地を平らにする「切土」と呼ばれる工法が取られているが、今回被害のあった縁辺部は「盛土」と呼ばれる「切土」で発生した土を人工的に盛った部分であることが伺える。



国土交通省による土地基本分類図の表層地質図<sup>2)</sup>よりデジタイズ(地図の位置がずれていたのを修正)

該当する盛土部分は「cl」となっており、碎屑土となっており、卯辰山層と思われる「gs」の丘陵地の崩壊土砂の堆積した地形であることが伺える。

現在、地盤工学会北陸支部では新潟、富山、石川(奥能登を除く)各県の会員による調査によって、被害箇所の特定を行っており、石川県加賀地方でも液状化の被害が多く認められている。成果については順次公表の予定である。

以上。